

2014年9月14日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書 18章 9～17節

説教：自分を低くする

## 1 謙遜でありたいと願うのだが

誰でも、「高慢になってはいけません。謙遜でいなければ」と、頭ではわかっています。日々の生活の中で気をつけようとは思いますが、ところがこれが簡単ではありません。自分の高慢さに気がつけば良いのですが、たいの場合自分では気がつかないことが多い。

これは私の経験です。ある人から思いかげなく、「あなたは高ぶっていませんか」と言われたことがあります。こちらはまったくそんな自覚はありませんから、「とんでもない。あなたが間違っている。」むきになって、心の中で反論しました。そのときは自分が正しいと思い込んでいました。ところが神さまの取り扱いを受けるうちに、忠告してくれた人が正しかったことに気がつきました。だいたいむきになって言い返すところからすでにおかしいのです。あなたは間違っていて、私は正しい。そう言い張っていること、これがもう高慢そのものなわけです。

自分を低くする。いったいどうしたらできるのか。そして、低くする者が高くされるとはどのようなことか。この順番で考えて参ります。

## 2 自分を低くする者

### 1) パリサイ人の祈り

まず自分を低くすることから考えます。イエスは、ふたりの人を取り上げてたとえ話を語っています。最初に登場するパリサイ人は、心の中でこんな祈りをします。11, 12節。「神

よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようでないことを感謝します。私は週に二度断食をし、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。」

このパリサイ人の言い方に、いくつかの特徴があることに目を留めたいと思います。

「私はなにになにです」とは言っていません。その代わりに、「私はなにになにではありません」という言い方をしています。私はゆるする者ではない。私は不正な者ではない。私は姦淫する者ではない。私は隣にいる取税人とはまったく違います。全部、何々ではない、と言っています。そのあとで、「私はこれこれをしています」と、行いを強調する。これが特徴です。

非常にうまいたとえです。「私は正直者です」と言う人はまずいません。けれども、「私は悪人ではない」と言うのはどうですか。そんなに抵抗がない。皆さんは心の中でこのように考えていませんか。「自分は正しい人間であるとは言いません。でも、それほど悪い人間でもない。自分は親切な人間であるとは言いません。でも、それほど冷たい人間ではない。」どうでしょう。パリサイ人の祈りとそっくりです。イエスはこのパリサイ人のしていることは、自分を義人とする態度であり、人を見下す態度であると言っております。びっくりしてしまいます。パリサイ人の祈りのどこがおかしいのか、取税人の祈りと比べながら見て参りましょう。

## 2) 取税人の祈り

13 節。「ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。「神さま。こんな罪人をあわれんでください。」

就職を目指している人たちは、会社面接でこんな質問を必ずされます。「あなたはこの会社でどんな活躍ができますか。あなたはどんな能力を持っていますか。」この質問に、「私は何もできません」と答える人はいないでしょう。「私はこんなことができます」と積極的にアピールしなくてはいけません。パリサイ人の祈りはまさにそんな感じです。「私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげています。」

一方の取税人はどうか。会社の面接で、「私は何もできません。私は人に迷惑をかけてばかりいる愚か者です」と言っているようなものです。会社はこのふたりのうちどちらを採用するか。取税人は真っ先に採用候補からはずされるでしょう。

では神の評価はどうであったか。14 節。「あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

この世の評価とは逆です。「私はだめな人間です」と言う者が、義と認められました。「私は悪い人間ではありません。あれもできます、これもできます」と言う者ではなかったのです。どうしてなのでしょう。イエスの説明はこうです。「だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

この世は、自分で自分を高くすることを求

めてきます。チャンスは平等に与えるけれど、そこから上に這い上がるのか、それとも下に落ちるのかは、すべてあなたの努力次第、自己責任である。そんな圧力をかけてきます。そんな世界で一生懸命がんばってきた私たちです。クリスチャンになったので、今日から正反対の考え方をするんですよと言われても、長い間の癖がついてしまっているから、なかなか変えられない。この世の基準と同じように考えてします。その結果、どんな祈りになるか。パリサイ人の祈りになるのです。「私は間違っていました」とは、とても言えない。そんなことを言ったら神に怒られるのではないかとびくびくしています。信仰は行いではありませんと口では言います。けれども実際は、自分は怠けているのではないか。もっと何かをしなければならぬのではないか。いつも脅迫されているように感じたことはないですか。脅迫されて楽しい人はいません。いつもどこかで無理をしている自分があります。そんなことをしていたらいつか疲れます。

## 3) 神の前に出るとき

開き直りに聞こえるかもしれませんが、神の前で無理してどうするのでしょうか。一番楽なのはなんですか。いつもの自分であることでしょうか。がんばる自分、能力のある自分を演じる必要はない。ありのままの姿で出て行くだけ。ありのままの姿で神さまの前に出たらどうなるか。自分がちっぽけに感じます。汚れている自分が見えすぎるくらい見えてしまいます。どうしようもなく汚い自分がそこにいます。悲しまない人がいますか。神の前に出たら、だれだってこの取税人のように胸をたたいて悲しむしかない。神は、自分を

低くする者を高くしてくださると言ってくださいました。努力して低くなりなさいといのではありません。神の前に出たら自分が低いことに気がついてしまう。自動的に低くなってしまうのです。

### 3 高くされる

#### 1) 追い出されそうになった幼子たち

では低い者とはどのような人たちのことなのか。低い者たちがどのようにして高くされるのか。その具体的な例が15節以降に書かれています。「イエスにさわっていただくとして、人々がその幼子たちを、みもとに連れて来た。ところが弟子たちがそれを見てしかなかった。」

母親たちが赤ちゃんを抱いてやってきたようです。日本語に「あやかる」ということばがあります。人気スターに手を置いてもらったら、子どもの健康や将来が祝福される。そんな動機だったのかもしれない。けれども弟子たちは、「ここは大人の場所であって、赤ん坊が来る所ではない」と言ってしかりつけ、追い払おうとします。

#### 2) 天の御国は追い出された者たちのもの

これをご覧になっていたイエスは、こう言われました。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」

弟子たちに追い返されそうになった幼子たち。この子どもたちこそが、神の国に入る者だと言うのです。この箇所はよく、「子どものように純粋に信じて」とか、「子どもの

ように素直になって」と解釈される所です。でも文脈を見ると、もっと別のことも言えそうです。

親に連れられてきたのは赤ちゃんです。赤ちゃんは何かできますか。なにもできません。親の世話を受けなければ生きることができない存在です。大人から見れば邪魔な存在です。人々の目には「神の国にふさわしくない」と見えた人たち。そんな人たちこそが、実は神の国に招かれている。この世からはじき出された人たち。この世の基準に達しない人たち。そういう人たちこそが、実は神の国に招かれている。

低くなるために努力しなくてはと思いがちです。ところがどうですか。だれか神の国に招かれていますか。努力する人ですか。いいえ。何もできない幼子が神の国に招かれたのです。ということは、この世で役立たず、能なし、と言われる者が神の国を受け継ぐことになる。そう言っています。

みなさんは、能なしとなるために努力していますか。私は、今までそんな努力をしている人にお目にかかったことはありません。だれもしたくないことです。でも、ただお一人の方だけが能なしとなるために努力されました。

#### 3) 低くなられ、高くされた方

自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる。このことばは、主ご自身をも巻き込んでいきます。この方は十字架につるされました。皮肉なことですが、人の目には高くされたこととなります。でも罪人としてさばられました。人々からはじき出され、能なしと呼ばれました。この方はひたすら努力して能なしとなられ、この世でもっと

も低くくなりました。どこまで低くされたか。死んでよみの世界にまで下って行かれました。

けれども、三日の後に何が起きたか。死からよみがえられました。自分を低くする者は高くされる。「高くされる」とは、褒められるとか、高い評価をもらうという意味ではなく、永遠のいのちをいただくという約束を意味しております。

パリサイ人は、私はほかの人とは違うと言い張りました。しかしイエスは言われました。

「わたしは不正な者ではない、とは言いません。わたしは姦淫する者ではない、とは言いません。わたしは涙を流して自分の罪に悲しんでいるあなたと一緒にいます。」

救い主イエス・キリストは、私たちと一緒に低くなってくださいました。であれば、高い所を目指す必要はもうなくなりました。今私たちが置かれている低い所でイエスを見いだしたいと願います。